

造血幹細胞移植医療体制整備事業 沖縄ブロック
令和7年度 第1回 ベーシックセミナー 2025年10月25日

結果報告



令和7年度 第1回ベーシックセミナー

日時:2025年10月25日(土) 13:00~14:30

開催方法:Web開催(ZOOM配信)

講演Ⅰ『がんのリハビリテーション概要～がんリハの始め方とその効果～』

名嘉 太郎先生(琉球大学病院 リハビリテーション部 助教)

講演Ⅱ『造血幹細胞移植のリハビリテーション～現状と課題～』

知花 由晃先生(琉球大学病院 リハビリテーション部 理学療法士)

講演Ⅲ『小児造血幹細胞移植におけるリハビリテーション

～患者と家族のQOL向上を目指して～』

宮城 奈津希先生(琉球大学病院 リハビリテーション部 作業療法士)

案 内 方 法

- 造血幹細胞移植施設関連へ郵送
- 造血幹細胞移植医療体制整備事業HPへの掲載
- 琉球大学病院HP,SNS(X,Facebook)への掲載
- メールでの直接案内(移植関係者、以前のセミナー参加者)



アンケート結果

セミナー事前登録者数

95名

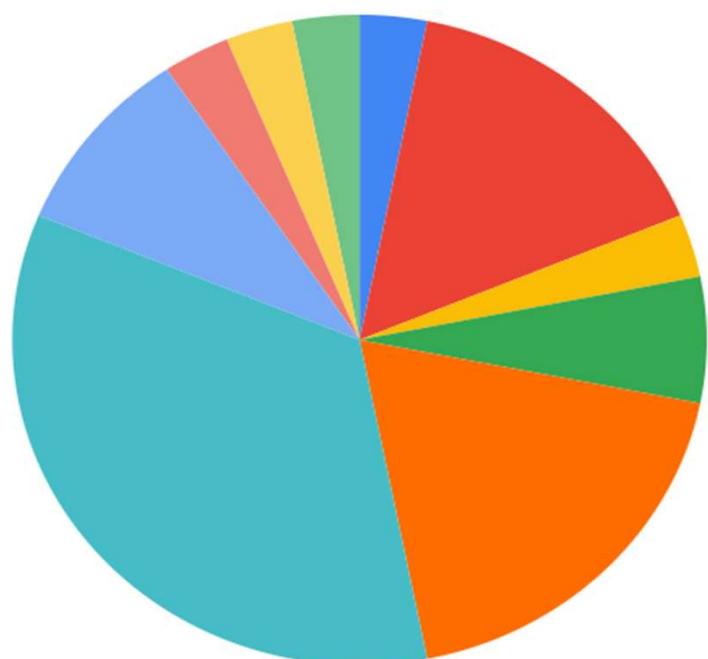
セミナー参加者数

70名

アンケート回答者数

36名

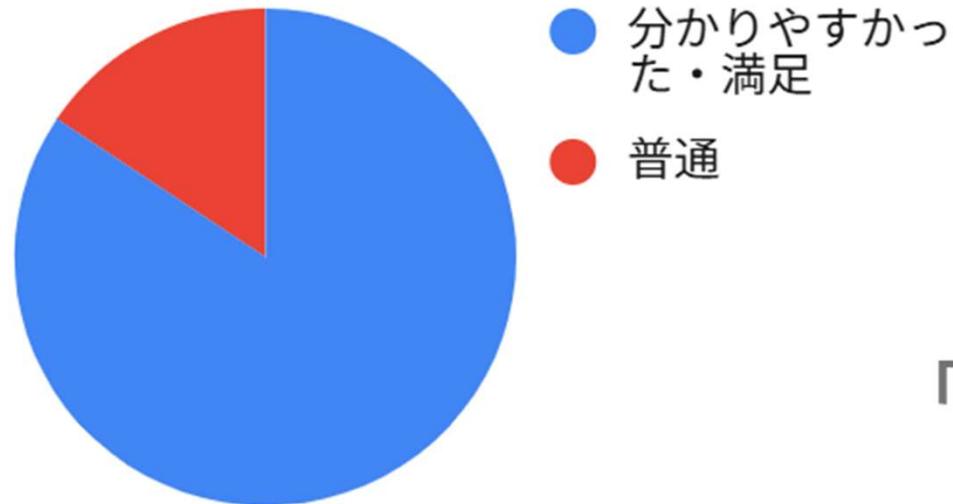
「このセミナー実施をどのようにして知りましたか。」



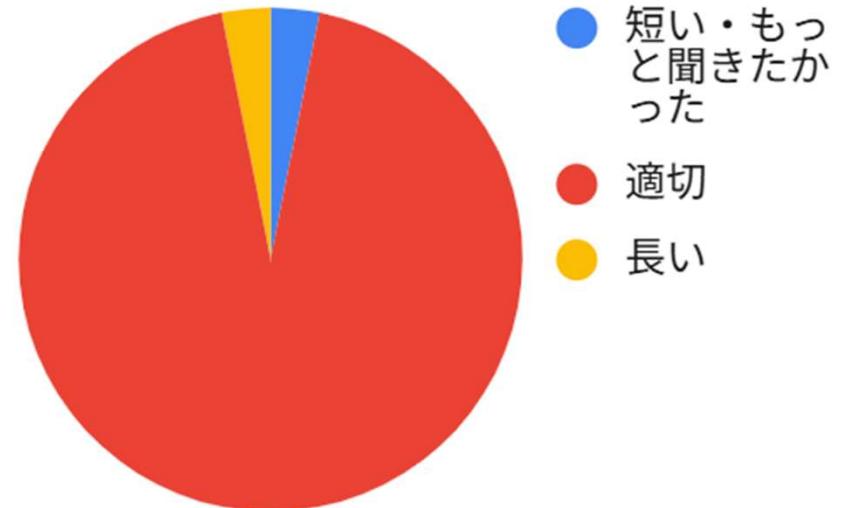
- SNS(Facebook, Twitterなど)
- 造血幹細胞移植医療体制整備事業 沖縄ブロックホームページ
- 令和7年度 第1回 造血幹細胞移植ベーシックセミナーのメールが届いた
- メール
- 知人からの紹介
- 職場に届いたポスター(郵便物)
- 琉球大学病院 院内ポスター・電子掲示板
- 研修案内がメールで届いた
- 血液内科Dr.からの紹介
- 一斉メール

アンケート結果

「内容についての満足度」



「所要時間について」



Q1. このセミナーの特に良かった点は何ですか？

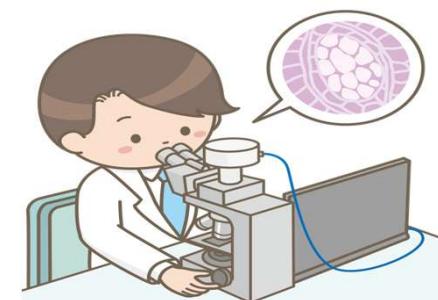
- ◆ リハビリスタッフからの直接話が聞けることは大変貴重で、実例紹介がわかりやすく、実践的な内容が臨床にすぐ活かせること。
- ◆ 小児の造血幹細胞移植で、リハビリテーションを行なっていることを初めて知れたこと。
- ◆ がんリハの重要性を改めて理解できた。疾患別リハとは、違う分類ということも初めて知った。
- ◆ 造血幹細胞移植前後のリハビリについてあまりないため、実際行われている方法や頻度、強度などの講義が大変参考になり、臨床に役立てたい。
- ◆ 普段あまり聞けないリハビリの血球減少時の対応が聞けたこと。
- ◆ 血液疾患(化学療法)患者に対するリハビリの実際を知ることができ、当院ではどのようにしているか、また、改善点や新たに導入できることがないか考えるきっかけとなった。
- ◆ 運動負荷を数値的に紹介してもらえた事、また低周波など。
- ◆ GVHDの慢性期対策が聞けたこと
- ◆ リハビリを多角度から同時に、そして小児と成人を同じタイミングで拝聴できた事。
- ◆ リハビリによる治療で、倦怠感やストレス緩和にもつながるので、患者状態をみながら、リハビリ介入の必要性を感じた。

Q2.今回のセミナーで改善した方が良い点は何ですか？

- ◆ Zoomにタイムラグがあった
- ◆ ネットワーク環境
- ◆ 音声が途切れで聞き取りにくい場面があった

Q3. 今後どのようなテーマを講演してほしいですか？

- ◆ 移植治療における感染対策、栄養療法
- ◆ 小児がんのリハビリテーションで、家族を中心としたケアの具体的な実践方法
- ◆ GVHD(急性・慢性)や、入院中と退院後の生活の注意点
- ◆ 実症例を基にした治療経過や合併症
- ◆ 多職種でのチーム医療、それぞれの取り組み
- ◆ (移植中)リハビリテーションと薬剤の影響について
- ◆ 治療中のトラブルシューティング
- ◆ 内容が、より具体的な実際のリハビリ臨床介入例
- ◆ 妊孕性の課題について
- ◆ HCTC活動や移植医療でのお金のことについて



Q4.その他（自由記載欄）

- ◆ 疑問だったことがご講演にあったため、実際の臨床で役立てたいと思います。ありがとうございました。
- ◆ 名嘉先生が中心となり、がんリハ研修会を開催されていることを知る良い機会となりました。
- ◆ 看護師の外来業務の中では、必要性を感じながらもリハについて介入が分からなかった点であり、大変参考になりました。診療報酬や部署のマンパワーの課題はありますが、外来患者様に向けてどのように取り組めるか考えていきたいと思います。
- ◆ 造血幹細胞移植予定の患者さんを初めて担当することで不安があり、今回このセミナーを知って参加いたしました。勉強になりました。
- ◆ 【質問】当院もベルト電極式骨格筋刺激療法のB-SESがあります。無菌室がフロアではなく、個室であること。感染対策として無菌室に持ち込みができないこと。などから移植患者様には実施しておりません。特に生着前の感染対策も含めて、B-SESをどのように運用しているか教えていただけますと幸いです。
【回答】当院では、毎日リセット作業でタイヤも含めて全て消毒清拭して、使用する度アルコール又はクリーナーなどでふき取り作業をしています。極力、クリーンルームに入室している患者様を先に使用するよう調整しています。感染対策室の指導でベルトの布を各30セット程購入してもらい使用する度毎回交代、タオル等と同じように洗濯消毒乾燥まで業者に依頼して使用しています。基本的には接触感染のある患者の使用は控えています。
低周波の効果も有益ですが、運動は無理だけど電気はやりたいという患者様もいて、電気の後に運動療法も追加できるケースも多くみられます、運動するというよりも楽にできるという点で、クリーンルームでのリハビリの導入にはとても有益に感じています。





多くのご参加誠にありがとうございました
皆様からいただいた貴重なご意見を参考に
沖縄ブロック 移植拠点病院として
今後の活動に繋げて参ります